

主 題：感謝の人生 1

聖書箇所：ローマ人への手紙 12章1-2節

恐らく、皆さんがよくご存じの聖書箇所の一つであると思います。この12章の1節と2節、非常に重要な箇所を今日から私たちは学んでまいります。まず、この二つの節を読みましょう。

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

1節を見ると、明らかに、ここにはパウロのキリスト者たちへの奨励が記されています。パウロはクリスチャンたちを励ましているのです。「兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。」と。「お願いします。」とは、ある人は何となく弱々しく感じるかもしれません。自信がなく、パウロはこのようなことを人々にお願いしていると…。しかし、このことばは「熱心に勧める、強く勧告する」という意味をもっています。パウロは、当然、読者たちがこのような行動を為すことを期待して、この勧めを為したのです。また、彼らがそのような行動にすぐに移っていくようにと、パウロは彼らを説き勧めようとしているのです。そのようなことばを使っているのです。ですから、彼自身の熱い思いがこのことばの中に出ています。古代ギリシャ語では、このことばは、今まさに戦場に赴こうとしている兵士たちに、発破をかけることばとして用いられました。戦場に出て行こうとする兵士たちを励ますためです。そして、このことばは、使徒であったパウロがその権威に基づいて語った彼の願いです。そのようなことを辞書は説明しています。

ですから、これらのことを総合すると、非常に重要なメッセージをパウロは語ったこととなります。今話したように、当然、聞いている者たちがこのパウロの奨励に従ってこのような行動を為していくことを期待されていました。ちょうど、命令を与えるのと同じように。恐らく、パウロがここに命令形を使っていないのは、彼がこれから奨励するその事項は、強制されて行なう性質のものではなくて、自ら進んで行うものだからです。強制されて行ったとしても、それが必ずしも喜ばれるものではありません。これからパウロが私たちに教えようとする内容は、強制されて行なうものではないのです。イエス・キリストを信じる一人ひとりのその心の中から出て来るものなのです。もちろん、この奨励は、ローマ在住のその当時のクリスチャンたちだけでなく、時代を越えて、すべてのクリスチャンたち、あなたや私に対するメッセージでもあります。

では、いったい何をパウロが奨励しているのか？先ほど読みましたが、それは「あなたのからだをささげ物として主にささげること」です。それがパウロが奨励したことです。当然、私たちがそのメッセージを聞いたとき、その奨励を聞いた時に、いったい何を言わんとしているのか考えます。「からだをささげる」と言いました。どういう意味でしょう？

☆パウロの奨励

「あなたのからだをささげ物として、主にささげること」

A. ささげ物の種類 : あなたのからだ 1節

「あなたがたのからだ」とは？

1. 肉体

当然、私たちが考えるのは「からだ」、この「肉体」です。確かに、そのことはパウロは他の箇所でも教えています。皆さんがよくご存じの1コリント6：19-20に「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。：20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」とある通りです。ですから、私たちのからだは私たちのものではなく神のものだから、当然、私たちは神におささげします。当たり前のことです。でも、それだけが理由ではなさそうです。というのは、パウロはその当時の人々の置かれている状況をよく知っていました。皆さんもよく憶えておられると思いますが、ギリシャ人の間では「からだ」は重要ではありませんでした。彼らが重要視したのは「霊的な部分」です。からだは卑しいものと見られていました。そこでパウロは、そのような考えの影響を受けている人々がいることを知っていたゆえに、大切なことを教えようとするのです。「からだをもって、あなたは主なる神に仕えることができる。」ということです。

パウロはこのように言っています。「からだは聖霊の宮、聖霊の働く器である。」と。聖霊が私たちのうちに、クリスチャンに内住しているだけではないのです。聖霊が私たちを用いて、神のみわざを為されるのです。だから、あなたは聖霊の宮だけではなく、聖霊があなたを用いて、あなたを通して神のみわざを為される、そのような器であると、パウロはそのことを確信していたのです。

ですから、この12章の3節からご覧いただきますと、そこには様々な霊的賜物が記されています。このような賜物が与えられていると言います。4節には「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、」とあります。それぞれに異なった器官であると言います。信仰者の皆さん、あなたには特別な賜物が与えられています。その賜物は、決して、隣に座っている人と同じではありません。それは、あなたが自らのからだをもって神の栄光を現わしていくためにです。ですから、パウロはこの12章の後半、もっと言えば、12章から15章13節まで、私たち信仰者がどのように生きていくべきか、その生き方について、具体的な例を上げて教えてください。神があなたを用いてくれるのです。家庭において、社会において、そして、もちろん教会において。しかし、あなたが神に用いられて行くためには、あることに注意をしなければいけないのです。それは、これまでと同じように罪に支配されることがないように注意しなければいけないということです。

パウロはもうすでに、7章の特に14節から25節の中で、日々罪との戦いがあるという自らの経験を話してくれました。そして、私たち信仰者も同じように、そのような罪との葛藤を日々経験しています。厳しい戦いです。そして、現実には悲しいことに、何度も様々な誘惑に敗北して来ました。どんなに意志を強くしても、どんなに神とともに歩んでいても、悲しいことに、私たちはすぐに罪に走ってしまいます。そして、私たちはその都度、神の前に告白して、神の前に立ち帰っています。確かに、そのような罪との葛藤を私たちは経験しています。しかし同時に、新しい歩みができる者へと私たちは生まれ変わったのです。このことは事実です。その証拠に、イエスを信じて救われたあなたや私のうちには、新しい願いが与えられているからです。

皆さんはこうして教会に集まってきて、兄弟姉妹とともに神を礼拝しようという思い、願わくは、毎日みことばを開いて、神のみことばを毎日いただくという願い、主の前にどんな時でも祈ってほしいという願い、主に用いていただきたいという思いをもって、主に「どうぞ、私を使ってください」と自らを主に委ねて主に喜ばれる働きをしてほしいという願い、肉体的に疲れていても、もっと神に使っていただきたいという思いをもって積極的に働いてほしいという願い、神の栄光のために生きていきたいという願い、イエスに早くお会いしたいという願い、そのような新しい願いを持って、私たちは今日を生きているのです。それは、あなたも私も生まれ変わっているからです。神が新しく生まれ変わらせてくださったからです。神が私たちを救ってくださったからです。しかし、それでいながら、先ほど話したように、パウロが証したように私たちは罪との葛藤を日々経験しています。そして、悲しいことに、敗北も経験するのです。だから、パウロは言うのです。「あなたのからだを主なる神にささげなさい」と。

ちょうど、このことはパウロがローマ人への手紙6章で語っていることです。もうすでに見たところですから詳しくは見ませんが、6:13に「また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。」とあります。イエスを信じる前、罪の奴隷であったときに生きてきたような生き方を継続してはいけないということです。なぜ、パウロはからだの各部分を「不義の器」（「不義の武器」と言いましたが）、「不義の器」としてささげてはならないというのでしょうか？それは「不義の器」として用いられることがあるからです。あなた自身が、そのような不義の器として用いられることがあるからです。そのような問題、そのような危険性がなければこのようなことを警告することはありません。しかし、そのような危険があるゆえにパウロは警告するのです。「あなたのからだの各部分を不義の器としてささげてはいけない!」と。もし、そのようにするならば、悲しい結果がそこに待っているとあります。

◎「不義の器」としてささげてはいけない理由

a) 人々に祝福をもたらさない：私たち信仰者が、神のみこころではなく罪を選択して歩んで行くなれば、自分に悲劇が訪れるだけでなく、周りのみなにもそのような悲劇が及ぶのです。考えてみてください。神はあなたを豊かに祝福してくださった。それは、あなたが祝福を独り占めにするのではなくて、祝福を人々に分け与えるためです。神がどんなにすばらしい祝福を与えてくださったのか、私たちはそのことを人々の前で明らかにします。兄弟姉妹たちの間で、神の祝福を分かち合います。私たちは神のすばらしさを人々と分かち合うのです。しかし、残念なことに、私たちが罪の中にいるならば、そのようなことは可能ではありません。

b) キリストのからだを建て上げるため（霊的成長）の妨げとなる：また同時に、私たちは救われた者としてこうして教会に集められている目的である「互いがキリストにあって成長する」ことの妨げになるからです。罪をもって、不義の器として用いられているならば、互いの霊的成長の妨げになるのです。

罪を犯して、罪の中を歩み続けることには何の益もありません。その歩みに何の祝福もありません。

だから、パウロは、その可能性がない訳ではないから、より力を入れてその警告を発するのです。罪の器としてあなた自身をささげることがあってはならない。不義の器として、あなたが用いられることがあってはならないというのです。神の敵であるサタンが、自分の目的を果たすためにあなたを用いることがあってはならないと言うのです。却って、神の器として、義の器となるようにと言います。では、どうすればいいのでしょうか？ローマ6：13の後半にはそのことが記されていました。「むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」と、神の支配を求めることです。そのような奨励をパウロは与えました。新しく生まれ変わった者としてそれに相応しく生きて行きなさい、神の栄光のために生きて行きなさい、なぜなら、あなたはそのような者と生まれ変わったからと言います。感謝なことに、かつては不義の器であった私たちが、今は、義の器として主なる神に用いていただける。神の目的を達成するために用いていただきなさい、用い続けていただきなさいと言います。このことをパウロはこの6章で、もうすでに私たちに教えてくれたのです。

もう一度、12章に戻って、パウロはここでも同じことを私たちに言います。悲しいことに、私たちの肉のうちにはまだ罪があります。この罪との戦いを私たちは経験しています。ですから、私たちのからだを主の前にささげなさいと。確かに、ここで言われている「あなたがたのからだを」とは、私たちのこの肉体を、そのすべてを神にささげることです。

2. 全人 : 私たちのすべて

同時に、「からだ」とは肉体だけでなく、全人、すべて、自分のすべてです。なぜなら、最初に見たように、私たちのからだは神のもですが、神のものであるのは私たちの「からだ」だけではないのです。私たちのすべては神のもです。最初からそうだったのです。私たちが自分のものだと思い始めたところに問題があるのです。神の栄光のために生きる者として造られたのに、私たちは自分のために生き始めたからです。そうして、みこころに反する者になったのです。これが罪です。ですから、私たちのからだだけでなく、私たちのすべては神のものなのです。そのことは、2節の中でパウロが説明していますから、そのときに話します。

少なくとも、最初に、パウロが教えるささげものとは、いったいどのようなものか？その種類については、確かに、「私たちのからだ」であること、それを神にささげなさいと教えるのです。

B. ささげものの条件 : 生きた供え物としてささげなさい 1節

「生きた供え物としてささげなさい」と書かれています。「生きた供え物」と聞いて、恐らく皆さんもパウロが頭に描いていたことは「いけにえ」のことであつたと想像されるでしょう。彼はそれを念頭に置いて語っていることは確かです。

1. 旧約のいけにえ

旧約の「いけにえ」を思い出してください。

- ・旧約において、いけにえには様々な条件があつた。
傷のついたものや、病気のものをささげげたときに、神はそれを喜ばれたでしょうか？お喜びにならなかった。マラキ書の1章にそのことが記されています。
- ・旧約において、動物のいけにえの場合、祭司がそのいけにえを殺してから祭壇の上でささげた。
- ・旧約においては、祭司がいけにえを殺して主にささげた。

2. キリスト者のいけにえ

ここでパウロが言っている「新たないけにえ」、クリスチャンのいけにえ、それは今私たちが見て来たことと関連がありますが、必ずしも同じではありません。なぜなら、神の小羊イエス・キリストが、私たちの罪の身代わりとして十字架で死なれた後、動物のいけにえは必要ではなくなったからです。罪のためのいけにえはもう必要でなくなりました。それは罪のための完全ないけにえがささげられたからです。神がそのいけにえを送ってくださり、そのいけにえをもって、私たちの罪の問題を完全に解決してくださったのです。罪の赦しのための完全ないけにえがささげられたのです。それでいながら、パウロはいけにえのことを言っているのです。「いけにえをささげなさい」、「主に喜ばれるいけにえをささげなさい」と言うのです。それは、今見たように「私たちのからだ」です。

*注意:

注意していただきたいのはここです。先ほども説明したように、旧約において人々に代わっていけにえをささげたのは祭司でした。彼らはレビ人でした。そして、今パウロは「私たちクリスチャンはいけにえをささげる。」というのです。もちろん、皆さんがよく覚えておられるように、ペテロの手紙第一に記されていることですが、私たち信仰者は「神の祭司」です。新約になると、私たち信仰者一人ひとりが「王の祭司、神の祭司」なのです。Iペテロ2：9「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である

祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」、これが私たちクリスチャンです。私たちは祭司なのです。

今パウロは、祭司である私たちクリスチャンに「自分をささげなさい。」と言っているのです。旧約の時代は祭司がいけにえをささげました。パウロは今、祭司であるあなたや私に、「あなた自身をいけにえとしてささげなさい」と言うのです。しかも、それは旧約の死んだいけにえではなく、「生きた供え物」として自分自身をささげ続けるようにと言います。これから見て行きますが、重要なことは、神の恵みによって救われた私たちに、神が何を望んでおられるかということです。考えてください。リストはいっぱい出て来るでしょう。こんなことをする、あんなことをする、このように生きることと、いろんなものが出て来るでしょう。しかし、これを見たときに、パウロが私たちに教えることは、神の恵みによって救われた私たちに神が要求していることは、「自分自身を神にささげる」ということです。それ以外のことは話していないのです。その説明を加えてはいます。そのことについてはまた詳しく見ていきます。

* 「自分のからだをささげなさい」について

パウロがささげなさいと言った、いけにえであるあなた自身には、旧約と同じように条件が付いています。二つの形容詞がここに記されています。一つは「受け入れられる」ということ、二つ目は「聖い」ということです。これらが「生きた供え物」の説明をしています。どのようなささげものでなければいけないのか？

1. 神に受け入れられる

まず、「受け入れられるもの」でなければいけません。言い方を変えれば、神に喜ばれるものでなければいけないということです。創世記の中に出て来るアベルとカインの話思い出してください。アダムとエバの間に子どもが生まれました。長男はカインで、次男はアベルでした。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となったと、創世記4章に記されています。二人が神の前にささげ物を持ってゆきます。4：3-4「ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来た。：4 また、アベルは彼の羊の初子の中から、それも最良のものを、それも自分自身で、持って来た。主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた。」、そして、ご存じのように、カインはそのことをねたんでアベルを殺しました。今、考えなければいけないことは、なぜ、アベルのいけにえが神に受け入れられたのでしょうか？

7節「あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」、ここに、「正しい」ということばがあります。「喜ばせる、満足させる、意に適う」という意味です。つまり、だれの意に適うというのでしょうか？だれを喜ばせる、だれを満足させるというのでしょうか？神のことです。つまり、アベルがささげ物を持ってきたとき、神はそのささげ物を喜ばれたのです。しかも、みことばが教えるのは、ささげ物だけでなく、アベルを喜んだということです。なぜ、喜んだのでしょうか？彼の心が正しかったからです。彼は心に神に喜ばれたいという思いを持ち、そして、彼の心は神を喜ばせ、神を満足させ、神の意に沿うものでありたいと願っていたからです。その思いがそのようないけにえをもたらしたのです。

この二人はともにささげ物を持ってきたのです。彼らは主なる神の要求を知っていたからです。「そろそろ、神さまの所に持って行こうか…」ということではなくて、みことばは記していませんが、彼らは神からあることを要求されていたのでしょうか。そして、彼らはそれに従ってやって来たのです。アベルは信仰によってその神の要求に従ったのです。でも、カインは不信仰によってその要求に従わなかったのです。ヘブル人への手紙11：4で著者はこのように教えています。「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。」、ここで教えていることは、アベルが義人であったということです。彼が救いをいただいていたことを、彼のいけにえが明らかにしたと言っているのです。つまり、アベルは創造主なる神を受け入れ、その方を愛し、その方の命令に従ったのです。心から従ったのです。神はその心をご覧になるゆえに、アベルの心を見てアベルを喜ばれ、その正しい心から出て来たささげ物を見て、それを喜んでお受けになったのです。

ですから、パウロが私たちに教えることは、私たち自身が神に自らをささげるときの問題は、私たちの心だということです。私たちの心が神の前に受け入れられるものでなければいけないと言うのです。神があなたの心をご覧になるときに、あなたの心がどのような状態にあるのか、そこに神の関心があるのです。どんな働きをするかではありません。どんな働きをして来たのでもありません。あなたの心が

神の方を向いて、神を喜んで誉め称え、そして、心から感謝をもって神を礼拝しようとしているかどうかです。その心が正しければ、あなたの礼拝、あなたの行動は神の前に喜ばれるものに変えられて行くのです。外側、つまり、行動は私たちの心を変えません。心が変わることによって行動が変わられていくのです。

まず、「あなたがたのからだを、生きた供え物として主にささげなさい。」と教え、そして、そのささげ物の条件は「神に受け入れられるもの」でなければいけないと言いました。神にささげるのです。先に話したマラキ書1章に記されているように、神は「そのようないけにえは受け入れない」と言われました。正しくなかったからです。汚れていたからです。そのことは二つ目に、この生きた供え物の条件としてパウロが上げる「聖い供え物であれ」ということに関連します。

2. 聖い

1) 旧約のいけにえ

動物もそうでした。旧約聖書の時代において、聖いとされていた動物をささげなければいけなかったのです。それは雄牛であったり、羊、山羊、鳩ですが、同時に、傷や欠陥のない動物でなければいけなかったのです。先ほどのアベルはそうでした。彼は羊の中の最良のものを持って来ました。

2) キリスト者のいけにえ

神が喜ばれることは、あなたが神を畏れて聖く歩んでいる、その聖い心です。ダビデは詩篇24:4でこのように言っています。「手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、歎き誓わなかった人。」、神はそのような人をお喜びになるのです。ダビデのことを思い出してください。ダビデはバテシェバとの間に罪を犯しました。そして、彼女の夫を殺そうとし、間接的でも、実際に殺してしまうのです。預言者ナタンはダビデのもとに行ってダビデの罪を明らかにしました。そのときに、ダビデは自分の罪を言い訳することなくごまかさずにそれを告白しています。Ⅱサムエル12:13「ダビデはナタンに言った。「私は主に対して罪を犯した。」ナタンはダビデに言った。「主もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった。あなたは死なない。」と、預言者はダビデに「あなたの罪は赦された」と言います。なぜなら、ダビデは神の前に心から自分の罪を悔い改めているからです。

このように、心からへりくだって自らの罪を告白すること、自らのその罪を告白して聖めていただくこと、それが神の前に喜ばれることであることはダビデ自身のことばが証しています。詩篇51:17「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」、神がどんなことをお喜びになるのか、どのような心をお喜びになるのか？それは砕かれた心です。神の前に自らの罪深さをしっかりと認めて、そして、神の前に心から謙虚になって、「神さま、私の罪を赦してください。」と願うのです。なぜ、そのようにするのでしょうか？神に喜ばれる者でありたいからです。聖い神の前に喜ばれる者でありたいからです。そのために自分の罪を告白しているのです。

パウロは私たちに教えました。「あなたのからだを生きた供え物として神にささげなさい」と。そのためには、神に喜ばれる者でなければいけないし、聖い者でなければいけないと。もちろん、信者である皆さんは「主よ、私のすべてをお使いください」と主の前に祈って、自らをささげていらっしゃるでしょう？でも、同時に、あなたは正しい心をもって「神さま、どうぞ私を使ってください」と言っていますか？「神さま、今日、私はだれかにあなたのことを伝えたいです。今日、私の話すことばも、私のすることもあなたに喜ばれたいです。どうぞ、私の心を正してください。」と、そのような願いをもってあなたは一日一日を歩んでいらっしゃいますか？神が罪を示されるときにどうしていますか？その罪を神の前に告白して、「主よ、どうぞ清めてください。罪が私を支配することがないように。あなたが悲しまれるようなことを私が愛して、そのようなことを私が求めることがないように私を助けてください。」と言いますか？

私たちは神へのいけにえなのです。そのいけにえを神が受け入れてくださるためには、私たちが正しくなければいけない、聖くなればいけないと、パウロはそのことを私たちに教えてくれるのです。今、私たちが見て来たのは「あなたのからだを神にささげなさい」でした。神に受け入れられる者として、聖い者として…。しかし、次に私たちが見ることを理解していなければ、私たちの学んだことが、もしかすると、あなたにとって大変な重荷になる可能性があります。皆さんの中で「それはもう聞いた、知っている。でも、私はやってみただけでもできなかったから、それは私にとってもう重荷です。」と言う人がいるかもしれません。是非、聞いてください。最後に、パウロはここで、三つ目に「ささげる理由」を教えています。

C. ささげる理由

「あなた自身をささげなさい」、「あなたのからだをささげなさい」と言われた、その理由についてパウロはここで教えてくれるのです。「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あ

あなたがたにお願いします。」とあります。

1. 感謝 : 神のあわれみのゆえに

見ていただきたいのは「神のあわれみのゆえに」と記されている所です。「ゆえに」という前置詞が使われていますが、これは「行動の理由、行動の根拠、行動の動機、原因」を表わしています。つまり、パウロはここでクリスチャンたちに、主なる神にからだを、すなわち、すべてをささげる理由を教えているのです。なぜ、あなたが自分のすべてをささげるべきなのか、その理由をここに記すのです。それは「主なる神が示してくださった、為してくださった恵み」である、それが原因だと言うのです。つまり、パウロがここで言っていることは、神があなたのために為してくださったそのすばらしい救いのみわざ、あなたがそれを覚えるときに、自分のすべてをささげようという、この結果が当然生まれてくるということです。

ジョン・カルヴァンは「人々がその心で、自分が神のあわれみにいかに支配されているかを理解し、それがよく心の中に刻まれるまで、真実な熱心さをもって神を礼拝することは決してなく、また、神を畏れ、神に従うようにいきいきと励まされることも決してない。」と言っています。つまり、自分が神のあわれみにいかに支配されているかということ、正しくよく理解しないことには、神が望んでおられるような正しい行動は生まれて来ないということです。今、私たちが見て来た、「あなたのからだを神にささげなさい」という、この行為、行動に関しても、もし、あなたが神があなたを救うために為してくださったその救いの恵みを覚えて、そして、その救いの恵みに感謝して、心からその命令に従っているのであれば、主はそれをお喜びならないということと言わんとしているのです。

私たちはもう、この1章から11章を通して、神が私たちのために為してくださった救いのみわざを見て来ました。神がいることを知っていながら、私たちはその神を無視して、自分に都合のいい神を選択して来ました。従いたくないからです。私の人生は私の好きなように生きると、そのようにして、私たちは創造主に真っ向から反抗して来ました。でも、神がいることを知っているものですから、不安なときに、自分に都合のいい神々を捜してみたり、そのような神が存在しなかったら、自分に都合の良い神を造り出したりして私たちは歩んで来たのです。それでよしとしたのです。

でも、それでよしではありません。神はその罪に対して必ずさばきを与えるということを警告して来られました。自分の中でも、イエスを信じる前から、何か悪いことをしたら何かの災いが自分の身に起こるのではないかという、そういう思いを持っています。しかし、だからと言って私たちは、その罪を赦していただくために、創造主なる神の所に行こうとしないのです。自由が欲しいから、好きに生きていきたいからです。私たちは分かっているのです。でも、私たちは真理に蓋をしてそれについて考えないようにしています。そんなことを考え始めると、自分のこの生活を楽しむことができないからと。神に逆らい続けたあなたや私に対して、神が為してくださったことをリストに上げておきました。この神があなたに一方的に働いて、私たちはこの神と和解することができたのです。私たちは今、神との平和を持っているのです。神が和解させてくださったからです。あなたが何かをしたからではありません。神に逆らっているあなたと、神が「和解しよう」と言って和解を与えてくださったのです。

* 私たちのために為された神のみわざ

- (1) 平和 5 : 1 「信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」
- (2) 恵み 5 : 2 「またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、…」
- (3) 希望 5 : 2 「…神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」
8 : 24 「私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。」
- (4) 愛 5 : 5 「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」
8 : 39 「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」
- (5) 義 3 : 21 - 22 「しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。:22 すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。」
5 : 17 - 18 「もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあつて支配するのです。:18 こういうわけで、ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行為によってすべての

人が義と認められて、いのちを与えられるのです。」

(6) 赦し 3 : 25 「神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。」

4 : 7 - 8 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。:8 主が罪を認めない人は幸いである。」

(7) 永遠のいのち 6 : 22 - 23 「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」

(8) よみがえり 8 : 11 「もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてください。」

8 : 23 「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」

今、私たち信仰者は神と「和解」しています。私たち信仰者は神のすばらしい「恵み」をいただいています。私たち信仰者は永遠の「希望」を持って生きています。死んでも生きるというのです。私たち信仰者は神の「愛」をいただいています。私たち信仰者は罪を「赦し」ていただいて、神の約束された「義」をいただいています。私たちの罪は赦されました。そして、私たちに「永遠のいのち」が与えられました。そして、私たちはこの肉体が滅んだとしても「よみがえり」を信じて生きている者です。このような祝福を神は私たちに与えてくださったのです。

2. 理にかなっている : それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です

パウロは言います。「あなたがそのことを覚えるなら、あなたの中には当然、どのようにして神に私の感謝を表わそう…と、その思いが出て来る。」と。だから、こう言うのです。「それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」と。「霊的な」とは、「スピリチュアルな」ということではありません。これは「良識のある、分別がある、理性的な、正常な、理にかなっている」ということです。自分自身のすべてを、感謝にあふれた心をもって主に差し出すことは、良識ある当然の行為、理にかなった行為であると言うのです。パウロが言っていることは、もし、私たちが神のすばらしい祝福を覚えるなら、そこには当然、「感謝だな…、ありがたいなあ…、それをどのように神に表わしていこう？」となるはずですが。

先週、NHKの番組で仙台市の若林地区の荒浜小学校の様子が出ていました。津波によって校舎が使えなくなったために、7kmほど離れた別の小学校に移ってそこで授業をやっていると。被災後、学校には全国から励ましの手紙やメッセージが届いて、学校では支援してくれた人たちや復興に携わっている人たちに感謝の気持ちを現わしたいと、大段幕を作りました。映像をご覧になった方がいらっしやるかもしれません。震災から4ヶ月たった7月11日、3年生の児童4人と担任の教諭が被災した校舎を訪れて、そこに長さ約10メートルの大段幕を掲げたというのです。そこにはこのように書かれてあったと言います。「たくさんの力をありがとう！」と、その文字の周りには、全校児童一人ひとりが感謝のことばをイラストを入れて書かれていたと言います。イエスを知らなくてもこのようにするのは。人の善意に対して感謝を現わすのです。

神の為してくださったこの救いのみわざに対して、私たちはどのような感謝を現わすのかです。信仰者の皆さん、それがパウロの教えようとしていることです。思い出しなさいと言います。キリストの犠牲を、キリストの屈辱を思い出してみなさいと。創造主なる神がどんな苦しみに会われたのか、どんな辱めに会われたのか、どんな犠牲をあなたのために払ってくださったのか？私たちの地上の生活は、その神に应答して生きているのです。神に対する感謝の現われです。神のすばらしさをどのような生き方をもって私は現わしていくのか、その感謝を現わしていくのか…？。

あなたの心は神に対する感謝に満ち溢れていますか？あなたの心は神に対する深い畏敬の念に満たされていますか？「神さま、ありがとう！」と、そのような思いがあなたのすべての働き、すべての時間の原動力になっていきますか？私たち信仰者は、すべてのことにおいて、この神に喜んでいただきたいという思いをもって為す者たちです。教会のいろんな奉仕や、それが人の目につくことでもつかないことであっても、家庭においても、学校においても、職場においても、すべての為すことを、私たちはある目的のためにしているのです。「神さま、救ってくださいありがとうございます！私はその感謝をこのような形でしか表わせません。でも、私はあなたに私の感謝を表わしたい！」と、そうして私たちは

生きているのです。そのことをパウロはここで言っているのです。

信仰者の皆さん、ぜひ、考えてください。あなたはどのように生きているのかどうか？そのような生きることが、あなたが自分自身を神の前にいけにえとして、神に受け入れられる聖いけにえとしてささげていることになります。なぜなら、それは、強制されてではなくて、神の救いを味わった者だけができる生き方だからです。そのようにして生きてください。感謝の日々を過ごしてください。あなたを救ってくださった神に心からの感謝を、行動をもって現わしてください。

それが主が望んでおられることです。

☆考えましょう：

1. どうして主なる神は、あなたが、からだをささげることが望んでおられるのでしょうか？
2. そのささげ物が主に喜ばれるために、あなたが注意しなければならないことは何でしょうか？
3. なぜ、主はあなたの行為よりも、心に関心をもっておられるのでしょうか？
4. 主がカインのではなく、アベルのささげ物を受け入れられた理由を挙げてください。